

高校地理プリント（過去問類似）

人口・都市・生活文化 No.3

名前

得点

/10

問1 1950年代から2010年代にかけて、高度経済成長期などの急激な経済成長を経験したものの、国際的な人口移動の規模が総人口に対して相対的に小さかったため、社会増加率が一貫して0%付近の極めて低い水準で推移し続けた国はどこか。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. 台湾 2. 中国 3. 韓国 4. 日本

問2 インドでは、宗教的な理由から牛肉や豚肉の消費が忌避される傾向が強い。しかし、近年の急速な経済成長や都市化、食生活の多様化に伴い、宗教的なタブーが比較的少なく、安価なタンパク質源となる特定の肉類の消費量が急速に増加している。この、インドにおいて近年消費量が急増している、鶏などの鳥類を指す肉類の区分を答えよ。 (2021年 全国公立入試 類似)

1. 豚の肉 2. 牛肉 3. 羊の肉 4. 家禽の肉

問3 北アフリカなどの乾燥地域では、強い日差しや外気の熱が室内に侵入するのを防ぐため、窓などの開口部を小さくし、壁を厚くした伝統的住居がみられる。この住居において、熱伝導率が低く、現地の限られた自然環境から得られるため壁などの主材料として広く用いられている、粘土や泥を型に流し込んで天日で乾かした建築資材を何というか。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. 日干しレンガ 2. 焼きレンガ 3. 羊毛フェルト 4. トナカイの皮

問4 発展途上国や一部の先進国において、国内第1位の人口規模を持つ都市に人口や経済機能が極端に集中し、第2位都市の人口を大きく引き離しているような都市を何というか。 (2020年 全国公立入試 類似)

1. 世界都市 2. 田園都市 3. 衛星都市 4. 首位都市

問5 この都市は、マンハッタン島を中心に格子状（直交路型）の街路パターンが採用され、超高層ビル群が林立する近代的な景観を持つ。その一方で、都市計画に基づいて中央部にセントラルパークと呼ばれる広大な人工の緑地が確保されている。この都市の名称を答えよ。 (2004年 全国公立入試 類似)

1. ヒューストン 2. ロサンゼルス 3. ポートランド 4. ニューヨーク

問6 西アジアから北アフリカにかけての地域で広く信仰され、經典の規定に基づき特定の肉の摂取を厳しく禁じる一方で、羊やヤギ、鶏などの家禽の肉の消費を許容している宗教の名称を答えよ。 (2010年 全国公立入試 類似)

1. ジャイナ 2. ヒンドゥー 3. イスラーム 4. ソロアスター

問7 アジア系移民の歴史的・社会的ネットワークは、母国への資金流入において重要な役割を果たしている。特に、南アジアの国にルーツを持ち、世界各地で商業やIT産業、あるいは建設労働などに従事しながら、母国の家族や親族へ多額の送金を行っている在外住民やその子孫を指す、地理の教科書に登場する用語は何か。 (2011年 全国公立入試 類似)

1. 華工 2. 華人 3. 印僑 4. 華僑

問8 1980年代初頭から、自国の近代化や工業化を達成するために、日本の集団主義や労働倫理、技術を学ぶ「ルックイースト（東方）政策」を提唱し、日本へ多くの留学生や研修生を派遣した東南アジアの国はどこか。 (2005年 全国公立入試 類似)

1. カンボジア 2. マレーシア 3. ミャンマー 4. フィリピン

問9 近世のヨーロッパにおいて、火砲の発達という軍事技術の変化に対応し、死角をなくして防衛力を高めるために、星型の濠や強固な障壁で周囲を囲んだ都市の形態を何というか。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 植民都市 2. 宗教都市 3. 城郭都市 4. 自治都市

問10 1990年代のバブル崩壊以降、地価の下落や都心部での再開発、超高層マンションの建設などを背景に、利便性を重視する世帯が郊外から大都市の中心部へと再び流入するようになった。2000年代以降に顕著となったこの人口動態の傾向を何というか。 (2017年 全国公立入試 類似)

1. 職住近接 2. 職住分離 3. 都心回帰 4. 衛星都市

答え合わせ・解説 No.3

問1	答え 4 日本	高度経済成長期を含め、戦後のこの国では国内での地方から大都市圏への人口移動（国内移動）は活発であったが、国外からの移民受け入れや国外への移民流出といった国際的な人口移動は総人口に対して非常に限定的であった。そのため、社会増加率は一貫して0%付近の極めて低い水準で推移している。これに対し、フランスなどは移民の受け入れにより高いプラスを示し、メキシコなどは流出によりマイナスを示した時期がある。
問2	答え 4 家禽の肉	インドではヒンドゥー教徒が牛肉を、イスラーム教徒が豚肉を忌避するため、これらの肉類の消費は限定的である。これに対し、鶏肉をはじめとする鳥類の肉は双方の宗教において比較的タブーが緩やかであるため、経済成長に伴う所得向上を背景に、手軽な食肉として消費量が急増している。
問3	答え 1 日干しレンガ	北アフリカなどの乾燥地域では、日中の強い日差しや熱風が室内に侵入するのを防ぐため、窓などの開口部を小さく設計した伝統的住居が一般的である。この地域では樹木が乏しいため、手に入りやすい粘土や泥を型に入れて天日乾燥させた日干しレンガが主要な建材として用いられる。壁を厚くすることで、外気の熱が室内に伝わるのを遅らせる工夫がなされている。
問4	答え 4 首位都市	国内第1位の人口規模を持つ都市に人口や諸機能が極端に集中している都市は、首位都市（プライメイトシティ）と呼ばれる。エチオピアのアディスアベバや韓国のソウルなどがその典型例である。一方、オーストラリアのように第1位都市（シドニー）と第2位都市（メルボルン）の人口が拮抗し、2倍未満にとどまる場合は、複数中心型の都市人口分布となる。
問5	答え 4 ニューヨーク	格子状の街路、超高層ビル群、そして計画的に配置された広大なセントラルパークは、アメリカ合衆国最大の都市であるニューヨークの特徴的な景観である。
問6	答え 3 イスラーム	西アジアや北アフリカで広く信仰されているイスラーム（イスラム教）では、経典コーラン（クアーン）の規定により、豚肉の消費が厳しく禁じられている。一方で、羊やヤギ、あるいは鶏などの家禽の肉は宗教的に許容されており（ハラール）、重要なタンパク質源として広く消費されている。乾燥地域における遊牧や伝統的な生活様式、そして宗教的戒律が結びついた食文化が形成されている。
問7	答え 3 印僑	インドは世界有数の送金受取国であり、世界各地に居住する在外インド人（印僑）からの送金が国内経済を支えている。印僑は、イギリス植民地時代の労働力移動に始まる歴史的なつながりや、近年のIT技術者のアメリカ合衆国への移住、中東の産油国における建設労働など、多様な形態で世界各地に進出している。彼らによる本国への送金は、インドの国際収支において極めて重要な外貨獲得源となっている。
問8	答え 2 マレーシア	マレーシアでは、1981年に就任したマハティール首相のもとで「ルックイースト政策」が推進され、日本や韓国の経済発展や労働倫理を学ぶために多くの留学生や研修生が日本へ派遣された。ただし、全体の留学生数規模としては、中国や韓国などの東アジア諸国に比べて少ない。
問9	答え 3 城郭都市	大砲の出現と発達に伴い、従来の垂直な石壁をもつ城壁は脆弱になったため、近世ヨーロッパでは死角をなくし、砲撃の衝撃を緩和するために星型の濠や土塁を備えた要塞（城郭都市）が築かれた。周囲の濠は敵の侵入を防ぐ防御施設としての役割を果たしていた。これらは近代以降、都市の拡大に伴って取り壊され、環状道路などに転用されることが多かった。
問10	答え 3 都心回帰	バブル崩壊後の地価下落や、都心部における再開発、超高層マンションの建設促進などにより、職住近接を求める世帯が都心部へ再び流入するようになった。この現象は都心回帰と呼ばれ、2000年代以降に顕著となり、郊外の人口増加の鈍化や高齢化をもたらした。